

近辺の遺跡から

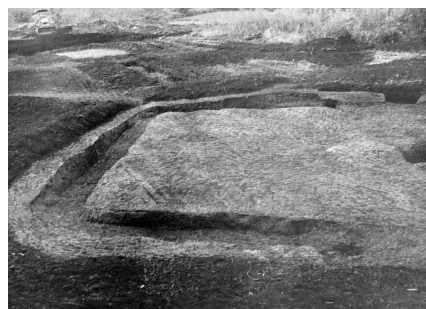
桶川市川田谷の台地には、古代の歴史を物語る遺跡が多く存在します。若宮 I 遺跡の発掘調査は、これに新たな事実を加えることになりました。この遺跡を理解する中で欠くことのできない近辺の遺跡を紹介します。

■ 西台遺跡・台原遺跡

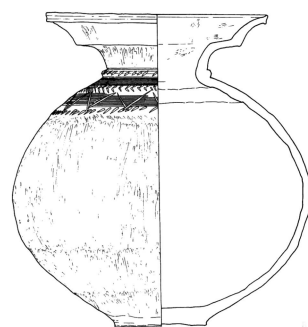
桶川市川田谷の北部にあって、若宮 I 遺跡と同様に荒川を臨む台地上には、西台遺跡と台原遺跡が存在します。

西台遺跡は、昭和43年（1968）に県内でもいち早く方形周溝墓が発見され、注目されました。

台原遺跡は、昭和59年（1984）に発掘調査が行われ、弥生時代終末から古墳時代初期の住居跡 8 軒が発見されました。出土した古墳時代の土器は、南関東の弥生時代の伝統をひく土器の中に東海地方西部や北陸地方などの系譜をひく土器が伴い、古墳が築かれはじめた時代に人びとが盛んに交流していたことを物語っています。



西台遺跡 方形周溝墓



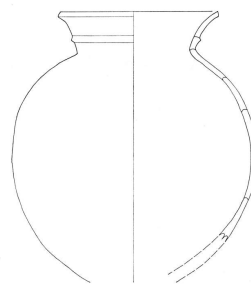
台原遺跡 壺形土器（東海西部系）

■ 殿山遺跡・殿山古墳

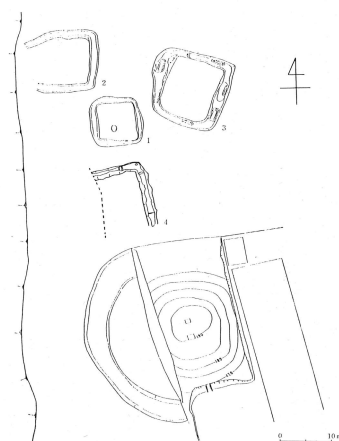
殿山遺跡は、上尾市大字畔吉にある荒川を臨む遺跡です。熊野神社古墳と並行する年代にあたる古墳時代前期の方形周溝墓が4基発見されています。

殿山古墳は、径32m、高さ2.7mの円墳です。その周溝の中から、底部を打ちかかれた壺形土器が発見されています。古墳の年代は、5世紀の初め、古墳時代中期にあたり、熊野神社古墳に続いて築かれたものです。

方形周溝墓から円墳へと推移する姿を伝える貴重な遺跡です。



殿山古墳 壺形土器



殿山遺跡と殿山古墳

■ 城髪山 2 号古墳

城髪山古墳は、川田谷古墳群柏原支群にあり、若宮 I 遺跡に隣接します。昭和44年に緊急発掘調査が行われました。

全長4.2mの横穴式石室が発見され、玄室内の副葬品の中には、短刀や鉄鏃の他、玉類が22点あり、水晶切子玉、碧玉製管玉、琥珀製棗玉、ガラス小玉、金銅製空玉と多種にわたります。この古墳の年代は、石室の形態や副葬品の多様な玉類から7世紀まで下り、川田谷古墳群にあってその終末に近い古墳の姿を示しています。



多様な玉類



金銅製耳環



金銅製空玉

城髪山 2 号古墳 副葬品